

令和5年度版 雑草イネ対策指針

* 雑草イネ対策は、麦・大豆・そば等への「転作」がもっとも確実な方法です。

* やむを得ず稲作を続ける場合は、下記のとおり適正な防除を実施して下さい。(漏水田は除草剤の効果が期待できません)

* 雑草イネ発生圃場は除草剤が3剤処理体系となるため安心基準米として仕分いたします。

上伊那農業農村支援センター・JA上伊那

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
水田作業	春耕起	入水 健苗育成	荒代かき(早めに)	植え代かき 田植え	除草3剤体系	最高分け時期 幼穂形成期 追肥	出穂	成熟期 収穫	雑草イネ発生圃場は最後に収穫	
雑草イネの生育相 防除のポイント	○ 転作の仕方: 連続3年転作 (効果) 畑作物の栽培により、雑草イネが減少～根絶 水稲直播が定着～増加 など			① 農将軍フロアブル (植代直後～田植え7日前) 7日 ② 田植え直後 アピログロウMX1キロ粒剤 または (田植え3日後) アピログロウMX1キロ粒剤 10日 ③ 田植え後10日または13日 フロアブルまたはジャンボ カイリキZ1キロ粒剤または アピログロウMXジャンボ または (田植え3日後) アピログロウMX1キロ粒剤		抜き取り期間 6/中下旬が望ましい (田植え1カ月後) 抜き取り重点期間 出穂後2週間程度で脱粒し始める。抜き取りは脱粒前に複数回行う。		※秋耕起は実施しない ※フラ焼却処理		
防除方法	雑草イネに対する除草剤の効果は出芽～不完全葉期まで期待できるが、第1葉期以降は効果がない。遅れて出芽する雑草イネもある。除草剤の効果が切れないように連続して処理する。 									
防除方法	※雑草イネ対策は、転作が最も確実。基本的に2～3年の転作で種子は根絶します。「雑草イネがでたら転作！」 【除草剤処理についてのポイント】 ① 植代から田植えまでの期間はできるだけ短くし、除草剤の効果を高める。 ※植代は浅く処理する。(発芽した雑草イネを埋め込むように) ※田植えは最後に行う。収穫も最後になることを考慮し、5月25日を目安にする。 ② 第1回目の除草剤は、田植え同時又は田植え直後に処理する。 ③ 第2回目の除草剤は落水せず連続して行き、第1回処理の10日後を目安に処理する。 ④ 第3回目の除草剤も落水せず連続して行き、第2回処理の10日後を目安に処理する。 *ポイント:丁寧な代掻きと水漏れ防止、田面を出さない 田植え後、気温が高い場合には各剤の処理間隔を短くする(7日間隔)									
防除方法	【抜き取りから秋の対応についてのポイント】 ① 除草剤処理時に1葉以上の雑草イネは、薬剤が効かないため抜き取りを行う。 最終除草剤処理後(中干前)に畦間、株間の漏水苗を抜き取る。 ② 雑草イネは、出穂後に確認しやすくなる。出穂後10日までに抜き取りを徹底する。 抜き取った雑草イネは圃場外へ持ち出し処理する。根部は再生しないように抜き取るのが原則(再生し穂が出るため) ③ 雑草イネ発生圃場の収穫は最終とし、他の圃場への拡散を防ぐ。 ④ 農業機械の清掃・作業準備を徹底する。 ※トラクターやコンバインに付着した土壌を落とす。 ※作業機による移動が懸念されるコンバイン等の作業は雑草イネ発生圃場を最後にする。 ※格納庫の泥などの清掃も徹底する。 ⑤ 秋耕起は実施しない。 ※冬期間に田の表面で凍み乾くようにして、圃場の種子の量を減らす。									
防除方法	防除体系(3剤体系処理-各剤1回散布) 1 除草剤を、田植え後3回処理する。※植代と田植の期間を短くする。 ◎植代と田植えの期間を7日とる場合 第1回処理: 植代直後 農将軍フロアブル:500ml/10a (植代後～移植7日前、1回) 第2回処理: 移植直後、又は移植3日後 アピログロウMX1キロ粒剤:1kg/10a (移植直後～30日まで、1回) またはアピログロウMXジャンボ:10パック(400g)/10a (移植後3日～30日まで、1回) 第3回処理: 第2回処理後10日目 カイリキZ1キロ粒剤:1kg/10a 又は カイリキZフロアブル:500ml/10a 又は カイリキZジャンボ:10パック(300g)/10a (1キロ粒剤は移植直後～30日まで、フロアブル、ジャンボ剤は移植3日後～30日まで、1回) 2 除草剤の処理後、畦間や株間に残った漏水苗は出穂まで(7月中旬まで)に全て抜き取る。									
防除方法	第1回処理: 移植直後、移植同時 農将軍フロアブル:500ml/10a 又は かねつく1キロ粒剤:1kg/10a (上記いずれも移植直後～30日まで、1回) 第2回処理: 第1回処理後10日目 カイリキZ1キロ粒剤 又は フロアブル 又は ジャンボ(散布量、時期は上記参照) またはアピログロウMX1キロ粒剤:1kg/10a(移植直後～30日まで、1回) またはアピログロウMXジャンボ:10パック(400g)/10a(移植後3日～30日まで、1回) 第3回処理: 第2回処理後10日目 (移植後30日まで) ザーベックス SM 粒剤:3kg/10a (移植後20～30日まで、1回) 3 出穂前後から刈取まで定期的に雑草イネの抜き取りを行う。 4 田植え後、気温が高い場合には、各剤の処理間隔を短くする(7日間隔)。*移植同時(かねつく1キロ粒剤)は田植同時散布機で散布できる。 除草剤の効果を持続するために 常時湛水状態 (田面を露出させない) が重要です。									
防除方法	【雑草イネの特徴】 * 玄米が赤褐色で、出穂後2週間頃から脱粒を始める * 落下した籾から出芽するため、個体毎に生育差が大きい。出穂はコシヒカリより早いものから遅いものまでバラツキが大きい。(コシヒカリに酷似した新タイプが発生し始めている) * 籾は成熟期には褐色を呈する 【従来タイプ】 * 籾(玄米)長はコシヒカリより長い * 草丈は出穂後コシヒカリより1穂分程度高い * ふせん色は赤く、ノゲがあれば赤色で長い * 葉色が濃く、止め葉が長く見えることが多い。 									
防除方法	【新タイプ】 * 一般米と区別がしにくい、早期黄化・脱粒する 									